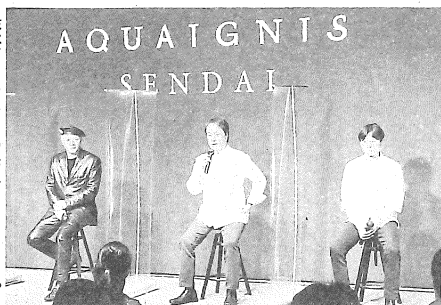


複合施設「アクアイグニス仙台」

「東北の食の一大拠点に」

監修シェフら意気込み

東日本大震災で津波被害を受けた仙台市若林区藤塚に4月21日オープンする農園、温泉、レストランの複合施設「アクアイグニス仙台」の記者発表会が28日、青葉区の複合施設「クロスBプラス」であった。レストランなどのメニューを監修する有名シェフら3人がコンセプトを説明した。



提供メニューや店舗のコンセプトを説明する(左から)辻口氏、日高氏、笠原氏

登場したのはパティシエの辻口博啓氏、東京のイタリア料理店「リストランテ アクアパッツァ」オーナーシェフの日高良実氏、人氣和食店「贅舌商論」店主の笠原将弘氏。

辻口氏は「生産者の思いなどを組み合わせたストーリー性のあるお菓子やパンを地元の人たちと作り上げていきたい」と強調。日高氏も「東北の海の幸を中心においしいイタリア料理として紹介していく」と語った。笠原氏は「東北の食材を使い、東北の食の一大拠点にする」と意気込んだ。

アクアイグニス仙台は建設業の深松組(青葉区)が市の防災集団移転跡地利活用事業に応募し、整備を進めている。約3万2000平方メートルの敷地に東北初出店

となる「猿田彦珈琲」のカフェ、津波発生時は避難場所となる温泉棟など6棟と農業ハウス1棟を建てる。

深松組など3社は2019年に運営会社「仙台reborn」を設立した。市地下鉄東西線荒井駅(若林区)から無料のシャトルバ

とうほく

スを走らせるほか、周辺の観光施設をつなぐバスの運行も検討している。

仙台reborn代表も務める深松組の深松努社長は「震災ボランティアなどで来た国内外の人に訪れてもらい、復興から未来への第一歩を踏み出すような施設にしたい」と話した。

仙台 reborn 復興の姿発信する施設に アクアイグニス開業発表会

仙台 reborn (深松 努代表取締役は2月28日、仙台市若林区で整備を進める複合施設「アクアイグニス仙台」のオープン発表会を開いた。4月21日のグラ

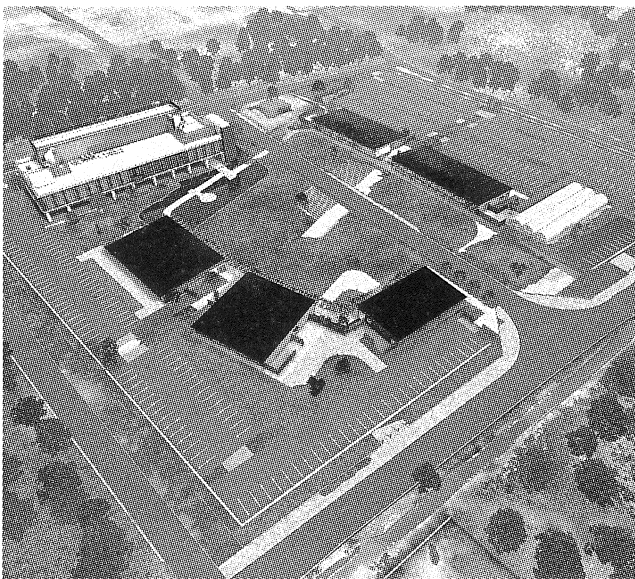
ンドオープンに先立ち、事業や施設の概要を紹介したほか、深松社長が「被災地のにぎわい創出に加え、さまざまな人に復興の姿を見てもらえる施設にしたい」と事業にかける思いを語った。

仙台市の新仙台ビルディングで行われた発表会には、深松社長のほか、アクアイグニス代表取締役で仙台 reborn の立花哲也取

締役や施設の飲食をプロデュースする一流シェフらが出席した。深松社長は、「東日本大震災の防災当時、津波の影



会見に臨む深松社長



完成予想図

響で何もなくなってしまう藤塚の地ににぎわいを取り戻すため事業を計画した」と経緯を説明。その上で「震災時は日本中、世界中のさまざまな人に支えられたので、その皆さんに『こんなにも復興して素晴らしい場所になったんだ』という姿を見ていただき、

未来につながる施設にしたい」と事業にかける思いを述べた。また、「周辺にはJRフルーツパーク仙台やあらはまかわまちてらす閑上などもある。これらと連携して、地域の回遊性を高めていきたい」と展望を語った。

アクアイグニス仙台は、東日本大震災で深刻な被害を受けた若林区藤塚地区内に建設している温泉や飲食店、マルシェなどを備えた複合施設。宮城県の「沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業」と仙台市の「東部沿岸部集団移転跡地活用事業」にも選定されており、地域のにぎわいを取り

戻す復興・創生のシンボルを目指している。また、温泉施設は高さを15メートル確保し、津波発生時の避難施設の役割も果たす。

さらに、SDGsの達成も目指しており、温泉施設に設けた地中熱回収システムによる「エネルギー」や200人以上の「地域雇用」、農業・マルシェによる「環境」への貢献などを通して、持続可能な未来を創造する考え。

温泉棟やマルシェ棟などで構成する北ブロックと、スイーツ棟、フルーツハウスなどからなる南ブロックに分かれており、南北合わせて延べ7850平方メートルで整備。設計・監理はARTSとBAU建築設計室、深松組一級建築士事務所が担当。施工は温泉棟を深松組、マルシェ棟ほか木造棟を阿部和工務店・中城建設JVが行っている。現場は、内装の仕上げ工事を残すのみとなっている。

復興の姿発信する施設に

アクアイグニス開業発表会

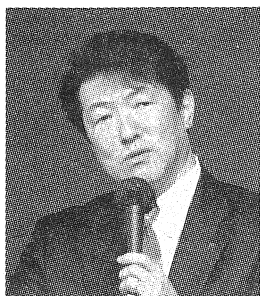
仙台reborn

仙台reborn(深松努代表取締役)は2月28日、仙台市若林区で整備を進める複合施設「アクアイグニス仙台」のオープン発表会を開いた。4月21日のグラ

ンドオープンに先立ち、事業や施設の概要を紹介したほか、深松社長が「被災地のにぎわい創出に加え、さまざまな人に復興の姿を見てもらえる施設にしたい」と事業にかける思いを語った。

仙台reborn(深松努代表取締役)は2月28日、仙台市若林区で整備を進める複合施設「アクアイグニス仙台」のオープン発表会を開いた。4月21日のグラ

仙台市の新仙台ビルディ



深松社長



一流シェフなど関係者が出席

深松社長は、「東日本大震災の震災当時、津波の影響で何もなくなってしまう

深松社長は、「東日本大震災の震災当時、津波の影響で何もなくなってしまう。藤塚の地ににぎわいを取り戻すため事業を計画した」と経緯を説明。その上で「震災時は日本中、世界中のさまざまな人に支えられたので、その皆さんに“こんなにも復興して素晴らしい場所になったんだ”という姿を見ていただき、未来につながる施設にしたい」と事業にかける思いを述べた。また、「周辺にはJRフルーツパーク仙台あらはまやかまちてらす閉上などもある。これらと連携して、地域の回遊性を高めていきたい」と展望を語った。

東日本大震災で深刻な被害

完成予想図



波発生時の避難施設の役割も果たす。

さらに、SDGsの達成も目指しており、温泉施設に設けた地中熱回収システムによる「エネルギー」や200人以上の「地域雇用」、農業・マルシェによる「環境」への貢献などを通じて、持続可能な未来を創造する考え。

温泉棟やマルシェ棟などで構成する北ブロックと、スイーツ棟フルーツハウスなどからなる南ブロックに分かれており、南北合わせて延べ7850平方メートル規模で整備。設計・監理はARTSとBAU建築設計室、深松組一級建築士事務所が担当。施工は温浴棟を深松組、マルシェ棟ほか木造棟を阿部和工務店・中城建設JVが行っている。現場は、内装の仕上げ工事を残すのみとなっている。

を受けた若林区藤塚地内に建設している温泉や飲食店、マルシェなどを備えた複合施設。宮城県の「沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業」と仙台市の「東部沿岸部集団移転跡地活用事業」にも選定されており、地域のにぎわいを取り戻す復興・創生のシンボルを指している。また、温泉施設は高さを15メートル確保し、津

アクアイグニス仙台

来月21日オープン

深松組ら

復興の姿 世界に発信

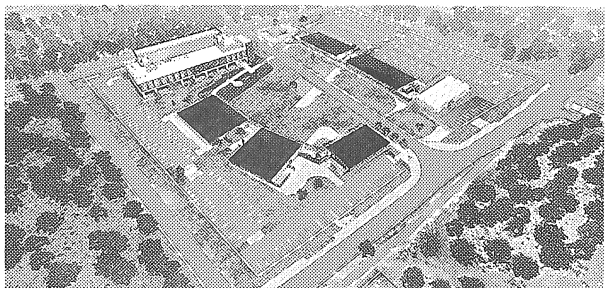


あいさつする深松社長

深松組（仙台市、深松努社長）などが、東日本大震災で被災した仙台市東部沿岸部の防災集団移転跡地に整備を進めている「アクアイグニス仙台」の記者発表会が2月28日に同市内で開かれた。4月21

日のグラウンドオープンを前に、深松社長が施設概要を説明した上で「復興のシンボルとして、未来への第一歩となる施設にしたい。震災後に支援してくれた世界の人々に来てもらい、復興した姿を見てほしい」と述べた。また、レストランなどを監修する辻口博啓氏ら著名シェフ3人がコンセプトを紹介した。

アクアイグニス仙台は温泉と食の総合リゾートとして、深松組などが設立した仙台r



完成予想図

eborn（深松社長）が運営する。メインの温泉棟はRC造2階建て延べ3153平方メートル。エネルギーの「地産地消」を目指し、▽地中熱回収▽排水熱回収▽発電機排熱回収——などに取り組む。

施設は温泉棟のほか、産直レストランが入るマルシェやスイーツ、ベーカリー、イタリアンレストランなどの各棟で構成する。設計はARTSとBAU建築設計室、深松組の3者が担当。施工は温泉棟本体が深松組、マルシェ棟などの建築は阿部和工務店・中城建設JVが担っている。建設地は同市若林区藤塚字松の西33-3ほか。

市地下鉄東西線「荒井駅」から無料のシャトルバスを運行するほか、周辺の観光施設と回遊する仕組みづくりも検討している。

仙台 reborn

東日本大震災の津波で被災した仙台市若林区藤塚に4月21日、温泉やレストランなどの複合施設「アクアイグニス」

整備を進めている。運営会社の仙台 reborn が2月28日、市内で記者発表会を行った。同社代表も務める深松社長は「復興から未来への一歩を踏み出すような施設にした。00㎡に温泉棟やレストラン、組と地元仙台の阿部和工務店カフェなど6棟と農業ハウス、(仙台市青葉区)、中城建設駐車場を整備。2020年1(同)が建設工事を行い、2月10月に建設工事に着手。深松 備などを進める。温泉は車いす利用ができる

複合施設が4月開業

す利用ができる
個室も整備。津波発生時は約500人が避難できる。東北初の地中熱回収システムを導入し、CO2削減に貢献する。仙台 reborn は、深松組など3社で19年に設立した。



「アクアイグニス仙台」記者発表会

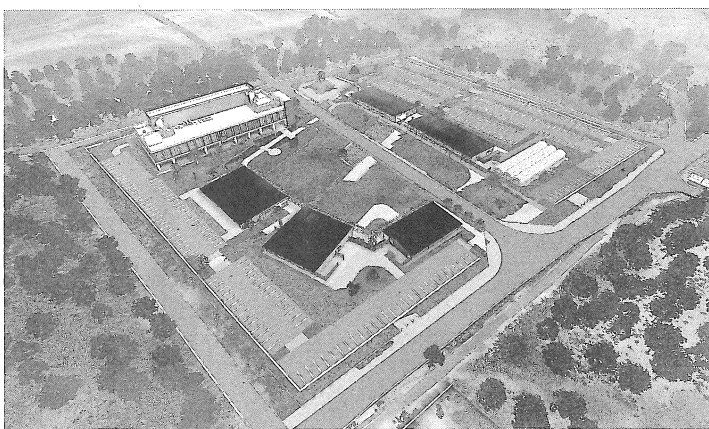
深松社長(左端)やレストランなどのメニューを監修する有名シェフらが会見に出席し、開業への思いを話した

仙台藤塚の「アクアイグニス仙台」

い」と話した。

深松社長はあいさつで「11年前、深松組は藤塚地区で堤防の工事をしてきた。大津波警報が発令され、集落の住民にも伝えたが逃げなかった方も多かった。津波で集落も居久根のある風景もすべて無くなってしまった。賑わいを取り戻したいという一心でこれまで走ってきた」と振り返り、事業経緯を説明した。

記者発表会には、レストランなどのメニューを監修する有名シェフら3人が登壇し、事業参画への思いやコンセプトを説明した。複合施設は、敷地3万20



「アクアイグニス仙台」のイメージ図